

FinTechフォーラムを開催

▼近年、情報通信関連など新しいテクノロジを金融面に応用し新しい金融サービスにつなげていく、いわゆる「フィンテック」への注目が一段と高まっています。こうしたなか、二〇一六年四月に決済機構局内に設立されたフィンテックセンターは、八月二十三日、金融機関やフィンテック関連企業を招集し、「第一回フィンテックフォーラム」を開催しました。

▼黒田東彦総裁は開会挨拶において、金融がもともと情報処理の集積であることを踏まえれば、情報技術革新がとりわけ金融に大きな革新をもたらす可能性に注目が集まっていることは不思議ではないと述べました。そのうえで、金融サービスの媒体としてのインターネットやスマートフォン利用が拡大する中、フィンテックの発展にあっては、金融ネットワークのオー

ブン化と情報セキュリティを両立させ、金融サービスへの「信頼」をしつかりと維持していくことが重要だと語りました。

▼フォーラムでは、「フィンテックにおける生体認証技術の可能性と留意点」と「金融分野におけるブロックチェーン技術の実装事例とその安全対策」というテーマに沿って、情報セキュリティの専門家や民間企業などからのプレゼンテーションが行われました。そのうえで、金融サービスにおける先端技術活用の可能性やその安全対策のあり方などについて、広範かつ活発な議論が行われました。

▼フィンテックセンターでは、

関係部署とも情報や知見の共有を図りながら、フィンテックの健全な発展を支援するとともに、これが金融サービスの利便性向上や経済活動の活性化に結び付けていくよう、積極的な貢献を果たしていきたいと考えています。

▼以上のフィンテックフォーラムの議事概要およびプレゼンテーション資料は、日銀HP「決済・市場」↓「FinTechセンター」↓「FinTechフォーラム」のコーナーをご覧ください。

金融高度化セミナー（ITを活用した金融の高度化）を開催

▼金融機構局金融高度化センターは、十一月七日に、「ITを活用した金融の高度化」と題する金融高度化セミナーを開催しました。参加者数は約四七〇名でした。

▼今回のセミナーでは、家田明金融高度化センター長の開会の挨拶に続き、岩下直行決済機構



FinTech対応・課題等が議論されたパネル・ディスカッション

局フィンテックセンター長からITを活用した金融の高度化における現状と課題についての説明が行われました。また、SBIホールディングス・北尾吉孝社長からは同グループにおける金融サービス事業の展開、北國銀行・杖村修司専務からは同行におけるシステム改革を通じた新たなワークスタイルへの取り組みに関する講演が行われました。

▼パネル・ディスカッション（モデレータは山口省藏副センター長）では、「これからの銀行のシステム開発・運用ではどのような体制が望ましいのか」



第1回FinTechフォーラム会場の様子

「金融機関はフィンテックにどう対応すべきか」という論点を中心に、住信SBIネット銀行・木村美礼執行役員、北國銀行・杖村専務、朝日信用金庫・三澤敏幸常務理事、T&Iイノベーションセンター・森本昌雄会長が議論を行いました。

▼参加者からは、「金融機関の先進的なIT活用事例やフィンテックへの取り組みが大変参考になった」「講演者・パネリストの熱い想いを感じた。今後のITの活用に役立てていきたい」などの声が聞かれました。

▼以上のセミナーの講演および



SBIグループにおける金融サービス事業の展開について語る北尾社長



ITを活用した金融の高度化の論点を語る岩下FinTechセンター長

パネル・ディスカッションの要旨・資料は、日銀HP「金融システム」↓「金融高度化センター」のコーナーをご覧ください。

青森支店開設七〇周年記念見学会を開催

▼青森支店では、支店開設七〇周年を記念して、十一月十一日から「青森支店開設七〇周年記念見学会」を開催し、多数の方にご来場いただきました。

▼見学会では、青森県の経済界や銀行界が第一七代新木栄吉総裁宛てに提出した支店開設の嘆願書や支店開設当初の経済動向をまとめたレポートなど、青森支店七〇年の歴史を紹介しました。さらに、七〇周年行事の一端として、今後の支店広報のシ



70周年記念見学会の様相

ンボルとなるよう青森ねぶたの技法を用いて制作した営業所の模型（ねぶた師・内山龍星氏制作）等を展示し、見学会にご来場の皆様に記念撮影等を楽しんでいただきました。

▼また、第九代支店長・吉田満氏が設立した地元行政・経済界との意見交換会が、本年五〇周年を迎えました。これを記念し、三村申吾青森県知事や地元経済界の皆様のほか、歴代の支店長が参加し、祝賀会が開催されました。

▼青森支店は、これからも青森県における中央銀行の拠点とし



青森ねぶたの技法を用いて制作した営業所の模型（左：内山龍星氏、右：山口青森支店長）

て、青森経済の発展に貢献していきたいと考えています。

旧小樽支店金融資料館では特別展を開催中

二〇一七年一月十七日まで



50周年祝賀会で祝辞の挨拶をされる三村青森県知事

▼金融資料館では「銀行の街小樽」を共通テーマとし、小樽市総合博物館との共催展として特別展「大正時代のモノの値段と小樽のくらし」を開催しています。

▼現在の旧小樽支店金融資料館の



大正期に使われていた日本銀行券

編集後記

■「対談」は、経営共創基盤 CEO の富山和彦氏と岩田副総裁が、日本経済復活の処方箋について、グローバルとローカルに経済圏を分ける視点で行われた長時間にわたる熱い議論の記録です。「地域の底力」は、熊本地震後の大分県別府市・由布市です。被災した旅館の再建、風評被害の払拭さらには地震を機に地域を見つめ直す、ローカルかつグローバルな両市において未来に歩まんとする凛とした人々の姿をご覧ください。凛とした女性といえば、プロサッカー監督の高倉麻子氏です。グローバルに展開するサッカー界に身を置く高倉氏の口から、指導者として人々をどのように未来に導くかについて多くの示唆を頂いたインタビューでした。最後に、開設 70 周年を迎えた青森支店の姿を通して、日銀の支店が地域にいかにか大切にされているかを改めて痛感しました。今回も、日銀に関わるさまざまな情報や役職員の情熱を皆様にお届けできれば幸いです。(鶴海)



金融資料館 HP
はこちらから

建物は一九二二年(明治四十五年)に竣工しました。大正元年)に竣工しました。当時の小樽は北海道の海の玄関口として発展しつづけてあります。

日本銀行金融資料館・小樽市総合博物館の二つの施設で「銀行の街小樽」を共通テーマにした展示会を行います。

●日本銀行金融資料館 特別展●
大正時代のモノの値段と小樽の暮らし
2016年10月20日(木) — 2017年1月17日(火)
小樽支店が竣工した頃(主として大正期)の小樽のモノの値段とくらしを、市民の日記や当時使われていたお金とともに紹介します。

●小樽市総合博物館 企画展●
銀行、無尽と小樽の人々
2016年10月20日(木) — 12月11日(日)
明治から平成までの、小樽での金融機関の変遷を、看板、地図、設計図、写真などで紹介します。

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文を PDF ファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2016年冬号
編集・発行人 鶴海誠一
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1
☎ 03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 文唱堂印刷株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

た。今回の展示では、小樽支店が竣工した頃(主として大正期)の小樽のモノの値段とくらしを、市民の日記(「稲垣益穂日記」小樽市総合博物館所蔵)や当時使われていたお金とともにご紹介しています。

▼入場は無料です。会期中の開館時間・休館日等の情報は金融資料館HPをご覧ください。皆さまのご来場をお待ちしております。

【お問い合わせ先】
金融資料館
〇一三四—二一—二一—

▼本店では、本館の建物改修工事のため、一般見学(事前予約制)と当日受付見学(予約不要)の入館方法等を変更しています。詳しくは日銀HPをご覧ください。

▼日本銀行は、二〇一六年末に、ホームページのリニューアルを予定しています。多数のアクセスをお待ちしております。



本店見学について
はこちらから